

<参考資料> 「ウェルビスタ ケアスタジオ」1号店(中野新橋)お客様の声<一例>



■介護保険サービス

身体機能面	精神面
<ul style="list-style-type: none"> ・片麻痺があって手を動かしたい思いから週 2 回通っている。今では腕の振りも出てきて物を押さえたり、手指も動かして使えるようになった ・膝の痛みが確実によくなっている。踏ん張るのがまだ辛いですがスタッフが励ましてくれるのでこれからもがんばりたい ・ウェルビスタの口腔体操はとても効果があり話しやすくなった。これも長生きできる秘訣かな ・階段や車の乗降がスムーズになり片足で身体を持ち上げられるようになった ・転倒してもケガをしなくなった。これも休まずにウェルビスタで運動しているおかげだと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルビスタに通うことが、外に出ようとか、休まずに通うようにしようという目標になり気持ちの面で前向きになれた ・スタッフや他の方が楽しそうにしているのを見ているだけで楽しい気分になれる ・スタッフが明るく親切で開放的な空間なのでデイサービスのイメージが変わった。こんな所があるなら、もっと早く来ればよかった ・当初は外出もできず、会話したり、人と接するのが苦手で精神安定剤を服用していたが、ウェルビスタに通ううちに積極的になり明るい表情が増えたとし、楽しい

■保険外個別リハビリサービス

<ケース 1> / 55 歳(女性) / 利用頻度:週 1 回 (60 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
くも膜下出血(2 年)	半身まひ・高次脳機能障害	もう一度働きたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左側の注意不足や物忘れが軽減 ・着替えが楽になった ・身支度がスムーズになり、復職へのモチベーションがあがった <p>身体は元気そうに見られますが、左側の認識が乏しく、歩くと左側をぶつかけたり、着替えで左右がわからなくなったりと日常の生活動作がうまくできず、復職の課題となっていました。リハビリをはじめて 1 週間で生活の変化に気づき、日常生活が楽になり自信ができました。</p> <p>後遺症に対しての生活の工夫を教えていただき日常生活が楽になり自信ができました。</p>		

<ケース 2>/ 50 歳(女性) / 利用頻度:週 1 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳出血(2年)	右の片麻痺	家族や友人と外食や買い物を楽しみたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩く恐怖感が薄れ、リハビリが「楽しみ」に変わった ・右足裏の間隔がつき、右腰の力がついた ・バランス力がついて歩幅が広がった <p>足裏の間隔がないことでわずかな傾斜や段差に恐怖を感じ外出時は車いすで介助が必要でした。今では恐怖心を克服し自分の足で自宅から出ることができるようになりました。家族や友人と食事を楽しむことを次の目標として、外でのリハビリプランを計画してもらいました。自分の希望や目的にあわせて細かなリハビリプランの変更ができるのが個別リハビリの気に入っている点です。</p>		

<ケース 3>/ 50 歳(男性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳梗塞(2年)	右の片麻痺	趣味を楽しみたい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕が振り上げられるようになった ・筋力・体力が向上した ・外出が楽しくなった <p>本当は自分の足に見切りをつけ、あきらめていました。でも趣味のゴルフをあきらめきれずにお試しでリハビリを開始し、個別でみてもらうことでよくなることを実感。そして、最低限ではなく最高を目指し、身体の改善以上に、ゴルフを最大限に楽しめることを目標にしました。一か月のリハビリでゴルフのフォームもきれいになりました。またリハビリを通じて緩やかな足の動きができるようになったことで、車を安全に運転できるようになり、乗り降りもスムーズにできるようになりました。今後も生きがいを取り戻していきたいです。</p>		

<ケース 4>/ 50 歳(女性) / 利用頻度:週 2 回 (120 分×8 回)

疾患名(発症からの期間)	症状	本人の希望
脳出血(2年)	右の片麻痺	通勤の恐怖心を克服したい
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足をあげるのが楽になった ・歩行速度があがった ・ストレスなく会社に通えるようになった <p>右半身の麻痺が残り、外出は家族のサポートが必要など日常生活に支障が出ていました。さらに通勤となると一段とハードルが高く、電車の降車や横断歩道を青信号のうちに渡ることができず、恐怖でしかありませんでした。</p> <p>リハビリでは積極的に外に出て、歩行だけでなく恐怖心の克服にも取り組みました。今では歩くスピードも速くなり、横断歩道も青信号のうちに渡りきれようになりました。定期的に診てくださる医師も、その回復ぶりに驚いてくれています。</p>		